

の違いということが与えるより大きな地理的な差にはむしろ馴化を心がしいる。これは大変にもったいないことだ。しかし専門化は、やむを得ない習性だろう。

この小文で云いたいことは、その多様のなかに専門を持つその持ち方である。どうして、地理学者といえ、だれもかも地形であり、気候であり、都市であり、経済であり、その他若干なのであろうか。雰囲気の違い、ホテルの違い、食事の違いをどうして扱おうとしないのか。それは伝統というものであろう。そして——これが一番云いたいことなのだが——その伝統とは、男性が、男性たる制約の上に作りあげた伝統なのだ。地理学を学ぶ女性が、どうして男性の伝統を受け継ぐことに努力しなければならないのだろうか。キムチの作り方などは、男性には深入りすることのできない領分なのだ。しかし、そこには、その民族の生存を支配する食物の知恵がこめられているのだ。北に行くほど、どうして料理が一層からくなるのだろうか。単なる偶然的、あるいは歴史的習慣であるとは思えない。寒さによるカロリーの消耗を穀類の大量摂取でおぎなう知恵だというようなことはないのだろうか。

食物一つとっても無限に深く、広く問題はひろがる。今、学問を学ぶ女性の多くは、好むと好まざるとにかかわらず、家庭で大根を刻まざるを得なくなるだろう。その時、その刻み方にも秘められた歴史と風土の背景に想いをいたして研究を続けることはできないものだろうか。地理学評論に、そういう女性の大論文を見ることができたら、何と楽しいことだろうと想像する。

1972.10.13 韓国からの帰途、山陰線の車中にて。

松井先生より学んだこと

原 高 則

このような題でものを書くことは大げさなことを好まれない先生には御迷惑かとも思いましたが松井先生退官記念号ということで近況報告をかねて思い出をつづります。

研究室から越谷市の中学校へ転出して9年目になりました。どうやら妻を迎えることができ47年4月より越谷市蒲生へささやかな新居を構えました。勤務先も相手が同僚だった関係で私の方が越谷市立富士中学校へ変りました。校名こそ日本一を目指す富士中ですが毎年1万人の人口増がある越谷市では教育行政がこれに追いつかずプレハブ校舎から出発した新設校です。トリプル・プレイならぬ結婚・転勤・新居建設が重なっただけにこの3月から4月にかけては大変に忙しい思

いをしました。

思いおせば松井先生にお世話になったのは早稲田での4年の地誌のゼミとお茶大の研究室での2年間でした。しかし助手として親しくそばにおいでいたためにお茶大生以上に薫陶を受けたと思います。学生時代には授業が丁寧で物静かな方という印象を受けました。さらに私が先生のお人柄に深く接することができたのは個人的に就職のお世話をいたした時、助手としての1年間だったと思います。学校を卒業する頃、先生からある私立校の紹介をいたしたとき、結局御好意を無にする結果になりましたが、授業が終った都度、何回もの礼儀正しい文面のお手紙で仲介の労をとっていただく中で人を紹介するめん密な配慮を感じました。その時成績表を提出することを求められたことがありました。学業にさほど自信がなく、語学はもちろん専門科目にも合格点ぎりぎりの点がざらりとあったのですから冷汗ものでした。成績表をじっと見つめられ先生が、「私は学校秀才は好まない。人間は鈍重な位がかえってよいですよ。」と言われたのが今でもうれしく耳に残っています。

毎日の研究室の生活では規則正しいということが印象に残っています。講義はきちんと記録されており、毎年講義の原稿は修正され学期中の多くの時間はこのために費やされていたと思います。しかも日曜や学校の休業中は那須野を中心に研究に専念されていました。講義と専門の研究を時期や週によって規則的に時間配分され教育を大事にされた研究者の態度だったと思います。一昔が過ぎようとする時点での感想で誤まりもあると思いますが先生から計画性ということ、継続することの大切さを教えていただきました。

不肖の教え子の無沙汰にもかかわらず先日は挙式に遠路おいでいただき温顔を拝見しました。交らぬ御健勝と退官の後も益々研究の発展をお祈りいたします。